

2022年度 中期経営計画

年間評価一覧
(大科目・中科目)

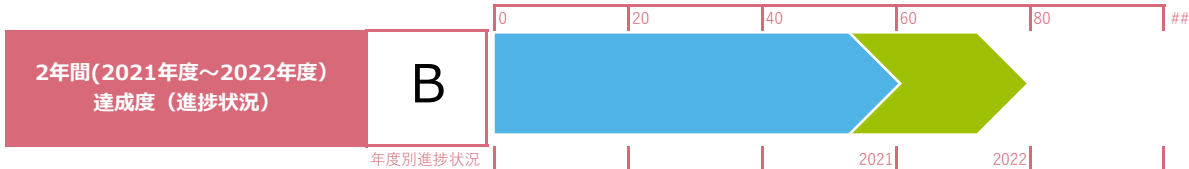


学校法人 茨城キリスト教学園



- ・広報および募集活動の質を向上させ、入学定員を確保する。
- ・学園の文化・教育・研究を伝える広報戦略を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S] 100%達成している	[A] 81%～99%達成している
	[B] 61%～80%達成している	[C] 41%～60%達成している
	[D] 21%から40%達成している	[E] 1%から21%達成している
	[] 0%、もしくは該当しない	



大科目：2年間の実行結果・評価説明

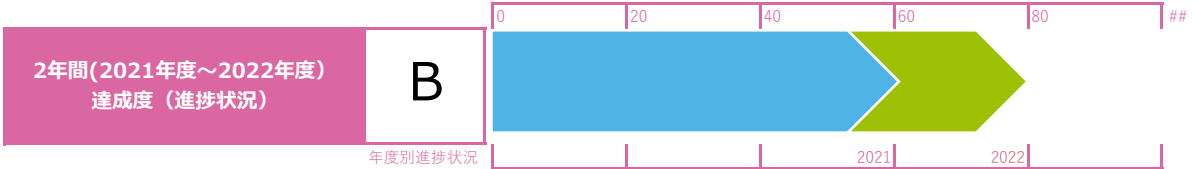
大学	積極的な情報発信および戦略的かつ適切な入試分析によって、目標とする入学者数の確保に至った。2023年度、大学HPの改修を早急に行い、魅力的な情報の発信に努める。
認定こども園	大学との連携活動を広報に生かした。日立市の人口減少や保育ニーズの増加を踏まえ、今後も本園の魅力を広報し必要な入園者数を確保することが課題である。
中学校 高等学校	ホームページや中学校・塾への訪問を通して広報活動を展開し、茨城キリスト教学園の環境の良さと魅力を、さらには完成した新4号館を大いにアピールすることができた。
法人事務局	新校舎竣工といった特徴的なイベントに加え、学生生徒園児の学内外における取組みを各種のメディアを通して紹介し、学園ブランド構築につなげた。
キリスト教 センター	年々その関心が高まっているキアラ館のブランド価値を十分認識し、その魅力をより積極的に発信した。キアラ館建立50周年はその好機である。

<p>1. 学生募集に効果的な広報活動と入試制度の再構築</p>	<p>B</p>	
<p>大学</p>	<p>SNSを用いた学科の魅力の積極的な情報発信、戦略的かつ適切な入試分析によって、2022年度を超える入学者数を確保した。大学HPの改修は2023年度の課題とする。</p>	
<p>2. 園児の安定的確保と広報誌の強化</p>	<p>C</p>	
<p>認定こども園</p>	<p>せいじ・みらい園合計では総園児数が利用定員に達していない。日立市の人口動態を踏まえ、引き続き適正な各定員数を検討し、効果的な広報をして園児の安定的確保に努める。</p>	
<p>3. 学校の魅力の情報発信力強化</p>	<p>A</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>ホームページや図書館ブログで地域社会へ広報活動を展開し、学校見学会や入試問題説明会、学園祭で多くの人を集めて、新4号館のお披露目も行うことができた。</p>	
<p>4. 豊かな自然、歴史と伝統をふまえた革新的な学園ブランド構築</p>	<p>B</p>	
<p>大学</p>	<p>新校舎（1号館）の共用開始によって、新たな学びの場としての期待が高まった。今後はこの機能をさらに充実させ、ブランドの構築、広報活動に活用していく。</p>	
<p>認定こども園</p>	<p>大学との連携が強化されてきている。今後はさらにユニークな連携活動を深化させ、総合学園の利点を生かした広報戦略を検討していく。</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>総合学園としての強みを生かし、茨城キリスト教学園の環境の良さと魅力を、さらには新4号館を、学校見学会やマスコミ取材を通して大いにアピールすることができた。</p>	
<p>法人事務局</p>	<p>大学・高校の新校舎竣工や産官学連携事業の推進に係る活動、学生生徒園児の学内外における取組みを各種メディアを通して紹介し、新たな学園ブランド構築につなげた。</p>	
<p>キリスト教 センター</p>	<p>ブランド価値のあるキアラ館を紹介する絵ハガキセットや案内マニュアルは随時作成してきた。現在、キアラ館50周年の記念パンフレットを、資料収集・作成準備中である。</p>	



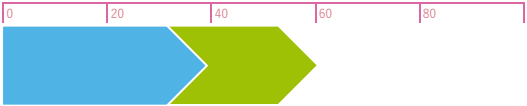
- ・隣人愛の精神を持ち、主体的に学び、次世代へ切り拓く人間を育成する教育を行う。
- ・多様性のある研究活動を推進し、地域・世界への貢献を果たす。

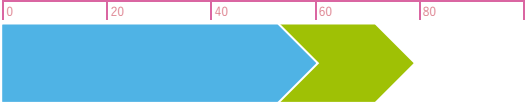
達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	

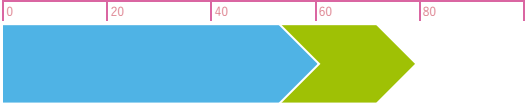


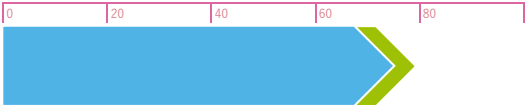
大科目：2年間の実行結果・評価説明

大学	「内部質保証体制」の土台が整ったことをうけ、2023年度の自己点検・評価に繋げる。学生支援体制は、多様な学生への相談体制を整備し、さらに充実した。
認定こども園	建学の精神に基づいて園児を大切に作る保育・教育を継続し、大学や中高との連携を本園の特色として今後もアピールしていく。
中学校 高等学校	建学の理念に基づき礼拝の充実、奉仕活動を行った。教職員は研修会で自己研鑽に努めた。クラス合併で中高一貫教育の発展を目指し、講師を招き高大連携の推進を図った。
法人事務局	コロナ禍における対策緩和をふまえながら対面とオンラインを活用した新たな教職員研修に取り組んだ。
キリスト教 センター	他大学にはない本学のチャペルの独自性と特色をさらに充実した。今後、大学の各学部・学科間の交流、学園内の各学校の交流にも努めたい。

1. 建学の理念に基づいた教育		C	
大学	学科・専攻それぞれに良好な成果があり。互いに互いを範とし、全ての取組みが全学に浸透すれば、第15期の評価をAにできる。次期プランでは定量的目標設定が必須である。		
認定こども園	建学の理念に基づき一人一人の園児を大切にする教育・保育が保護者からも評価されているため、今後も維持・強化していく。		
中学校 高等学校	音楽礼拝実施、生徒の積極的参加、従来の放送礼拝に加え、様々な取組みを行い充実した礼拝が実践できた。ボランティア活動もコロナ禍前の活動に近づけることができた。		

2. 教育の質保証		B	
大学	「内部質保証体制」の土台が整った。2023年度に全学的な合意を経て出発し、定期的に自己点検・評価の在り方を検証していくことが肝要である。		

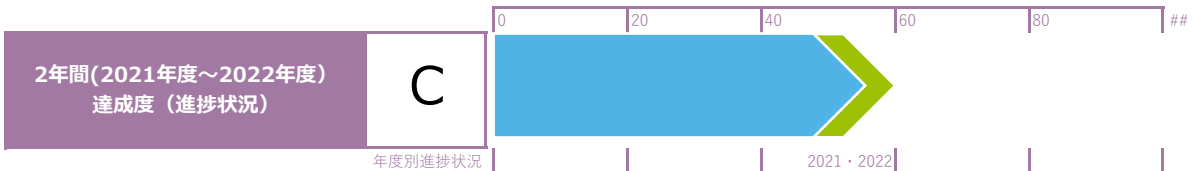
3. 学生支援体制の充実		B	
大学	多様な学生への相談体制を含め、学生支援体制がさらに充実した。一方、学生のニーズ調査結果の分析による改善や学生支援に生かす取組みについては、一部未着手である。		

4. 教職員研修の充実		B	
大学	研修は計画的に実施され、FDは教員が学ぶべき先端的な研究・教育内容に関する研修が行われた。一方、SDへの教員の参加は不十分であり、参加促進が今後の課題である。		
認定こども園	新型コロナウイルス感染症対策が2022年度から変化したことに伴い、対面での研修を増やすことができた。今後はさらに研修を充実させていく。		
中学校 高等学校	教職員研修の充実のために、私学教職員研修会に参加するだけでなく、国土地理院の社会科学の研修を本校で行った。また、各種オンライン研修にも積極的に参加した。		
法人事務局	継続するコロナ禍への対応に配慮しながら一部対面方式も再開、オンラインも併用したハイブリッド型での教職員研修に取り組んだ。		

<p>5. 多様な研究の推進</p>	<p>C</p>	
<p>大学</p>	<p>研究者支援体制を整備し、学科では外部資金獲得に向けた意識が向上している。科学研究費助成事業への採択に向け、まずは応募件数増加が直近の課題である。</p>	
<p>6. 大学と連携した特色ある保育の推進</p>	<p>B</p>	
<p>認定こども園</p>	<p>大学幼児保育専攻教員と園管理者の協議会を実施し、新規事業も含め大学との連携活動を実施した。今後も大学との連携を本園の特色として推進していく。</p>	
<p>7. 大学生の実習受け入れ態勢の充実</p>	<p>A</p>	
<p>認定こども園</p>	<p>大学生の様々な実習を受け入れることができている。また、大学の担当教員と実習について協議する機会も持つことができた。</p>	
<p>8. 中高一貫教育の充実と発展</p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>一貫SAクラスと特進SGクラスの合併に伴い、一貫教育検討委員会にて検討を重ね高校2年生での合併を実現した。今後は日々の教育活動を振り返り、さらなる充実を目指す。</p>	
<p>9. 法人内中大連携、高大連携の推進</p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>高校1・2年生の職業ガイダンスに茨城キリスト教大学教員を講師に招いて講座を実施、生徒が直に企業活動とそのために必要な学びを聴き、同大学への関心を高めた。</p>	
<p>10. チャペルのあるキャンパス・ライフ</p>	<p>B</p>	
<p>キリスト教 センター</p>	<p>学科チャペル、コンサート他の企画チャペルを充実させた。また、チャペル奨励者や前後期キリスト教講演会の講師選任も工夫した。さらに、礼拝堂のスクリーンを大型化した。</p>	

- ・地域に深く根ざし、国際社会に貢献する学園のブランド力を確立する。
- ・地域との連携活動を強化する。世界とつながり世界に学ぶ教育を深化させる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	



大科目：2年間の実行結果・評価説明

大学	産官学連携活動や地域連携活動が徐々に再開され、学生教職員が様々な活動に積極的に参加した。海外留学や研修も徐々に再開され、更なる進展に向け海外提携大学を訪問した。
認定こども園	新型コロナウイルス感染症対策のため2022年度までは大幅に制限された。感染症対策の変化に伴いグローバル化の施策と地域連携を強化することが課題である。
中学校 高等学校	グローバル化を目指し中学高校ともにイングリッシュキャンプを実施、留学生の受入・派遣を再開した。探究の授業で地域と連携し外部の方に研究の助言や実験の指導を受けた。
キリスト教 センター	地域社会にも貢献するとの観点から、平和教育としてアンネのバラ苗木配布を充実・継続している。今後、クリスチャン留学生を用いた地域における国際交流を試みたい。

1. 地域社会貢献への積極的活動実施		C	
大学	2022年度後半より、地域活動や産官学連携事業が再開されたことを受け、地域に向けた公開講座の開催や、専門家としての講師派遣を積極的に行った。		
認定こども園	2022年度は、近隣のシニア世代との交流は未実施であるものの、高校生との交流を再開することができた。今後は地域との交流の機会を増やしていく。		
キリスト教センター	2022年度は、中高生による出張讚美、大学生によるキャロリングもできた。地域に開かれた学園クリスマスも再開できた。活動がTV番組で紹介されたことも励みとなった。		

2. グローバル化の推進		C	
大学	新型コロナウイルス感染症の影響により海外留学や研修への派遣については困難な状況が続いているが、海外提携校訪問も実施され、新たな大学との連携協定も結ばれた。		
認定こども園	教職員の海外研修は2022年度も実施できていない。今後は、園児の保育・教育においてグローバル化の施策を検討していく。		
中学校 高等学校	グローバル化の推進として、中学高校ともにイングリッシュキャンプを行った。また、海外の高校とのオンライン交流、長期留学の受入と派遣、米国への短期留学も再開した。		

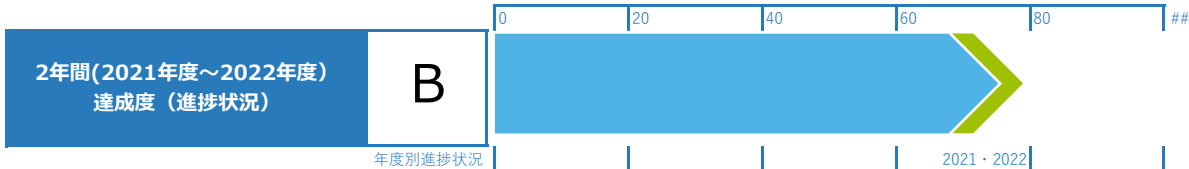
3. 地域社会との連携を推進し、外部人材および資源の活用		B	
中学校 高等学校	「探究」の授業において、地域の公共機関や民間企業に取材を行い、課題を設定して解決方法を模索した。また、大学や企業と連携し、研究の助言や実験の指導を受けた。		

4. 海外のキリスト教系学校学生との交流		D	
キリスト教センター	2022年度も、海外のキリスト教系学校との交流自体ができなかったことは残念であった。ただ、ウクライナからの留学生が来学し、交流できたことは良かった。		



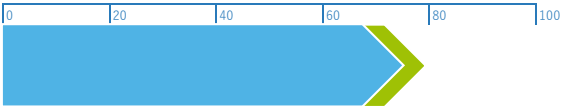


- ・キャリア教育、就職・進学支援の向上を図り、学生・生徒の夢の実現に寄与する。
- ・学生・生徒の卒業後の満足度を上げる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S] 100%達成している	[A] 81%～99%達成している
	[B] 61%～80%達成している	[C] 41%～60%達成している
	[D] 21%から40%達成している	[E] 1%から21%達成している
	[-] 0%、もしくは該当しない	



大科目：2年間の実行結果・評価説明

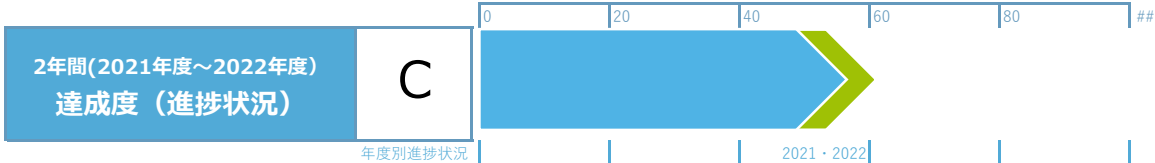
大学	キャリア教育や教員採用試験・国家試験では確実な成果が示されている。教育に携わる卒業生と在学生・教員との連携組織を新たに創設し、有益なネットワークを構築した。
中学校 高等学校	進路ガイダンス関連事業および宿泊行事も予定通り実施できた。2023年度以降、より内容の充実を目指す。

<p>1. 進路支援に対する組織的な支援体制の強化</p>	<p>B</p>	
<p>大学</p>	<p>体系的なキャリア教育を実施し、教員採用試験や国家試験では多数の合格者を輩出した。教育関係者ネットワーク(NICE)設立をはじめとして、卒業生との連携を推進した。</p>	
<p>2. キャリア教育の実践と充実</p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>進路ガイダンスは、外部講師以外にも卒業生を招いて実体験を直に伝えてもらうことによって、より身近な体験事業として実施できた。2023年度はより内容の充実を目指す。</p>	
<p>3. 学習指導と進路指導の強化</p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>東京大学教養学部による公開講座を中高生に受講させ、進路実現への意識を高める一方、総合型選抜や指定校推薦を希望する生徒に対して、手厚く個別指導を実施した。</p>	



- ・学生・生徒・園児数を継続的に確保する。
- ・環境変化に対応する事業と財務のバランスを図り財務基盤を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	



大科目：2年間の実行結果・評価説明

大学	早期に入学者確保方針を明確に提示し、学生数の確保に努め、経営目標となる学生数に到達した。私学事業団施設設備補助金2件が採択され、教育環境の整備を行った。
認定こども園	補助金や寄附金が得られていることに加え、2023年度に向けて施設維持費他の学納金の改定を行なった。教育・保育充実のため、今後も多様な収入源の確保が課題である。
中学校 高等学校	2023年度入学者数は、昨年比で中学高校共に微減となったが、2024年度に向けての学納金改定も決まり財政基盤強化策を一步進めることができた。
法人事務局	寄附金募集活動を継続し収入の多様化を図った。寄附金の効果的な活用実績を広報につなげ、更なる寄附金獲得への好循環に向け取り組んでいる。
キリスト教 センター	引き続き建学の理念(平和と真理と、愛)を追求することを通して、学園の財政に安定と適正と、豊さが与えられるよう、祈り続ける。

1. 組織ガバナンスの強化		B	
大学	「茨城キリスト教大学ガバナンス・コード」に沿い、社会的責任・教育研究機能の強化および財政基盤確保に努めた。また各部署の自己点検・評価を実施し、報告書を公開した。		
2. 予算配分の適正化		C	
大学	理事会方針に基づき、学部学科、大学院研究科や各部署の予算申請に対しヒアリングを実施し、適正に予算を配分した。新規事業はその重要性から厳正に検討し、予算配分した。		
認定こども園	両園の定員充足状況を注視しつつ、効果的な園児募集活動をすることで経営目標とする総在園児数の確保に尽力した。		
中学校 高等学校	学業特待生については、制度改革を行ない一定の効果があつた。体育特待生については、2024年度入試に向けて具体的な目標を設定する。		
法人事務局	目標とする入学者数は、社会状況や人口動態の影響がある状況下、大学において達成することができた。		
キリスト教 センター	各種事業実施において引き続き、少額の予算で最大限の効果を生み出す努力をしている。		
3. 収入の多様化と経費節減による財政基盤強化		C	
大学	2021年度からの継続含め行政・民間企業との連携講座（リカレント教育）が実施された。また私学事業団補助金（施設設備補助金：2件）を獲得、収入の多様化に努めた。		
認定こども園	2023年度よりの学納金改定を決定したが、今後も収入の多様化と経費削減の方策を検討し続けていく。		
中学校 高等学校	財政基盤安定のため、2024年度入学生募集から学納金改定に係る学則変更を県に届出ることにした。		
法人事務局	収入の多様化を図るための取組みである寄附金募集活動は、年間目標金額を達成、寄附金の有効用途活用を進めながら、次なる寄附金獲得への好循環に向け取り組んだ。		
キリスト教 センター	ペーパーレス化や節電など、可能な範囲で経費節減に努めている。		

4. 中長期修繕計画の策定と必要資金の確保	B	
法人事務局	中長期施設修繕計画（案）の再検討を進めるとともに、新たな第2号基本金組入れ計画を立案した。	

5. 安心と安全に基づく環境整備	C	
大学	学生および教職員の安心・安全な環境のため、避難訓練実施やwebによる安否確認および危機管理意識の啓発に努めた。またリスクに対する緊急対応体制の構築に努めた。	
認定こども園	子どもを預かる施設における安全確保が社会的課題となっている状況を踏まえ、本園としても安全面における取り組みや環境整備を強化している。	
中学校 高等学校	防災避難訓練は毎年行っている。原子力災害についても関連報道がある度に教職員で意識啓発に心がけている。防犯カメラ増設について2023年度予算に計上した。	
法人事務局	コロナ対策方針の推移をふまえた適切な学内対応や学園総合防災訓練の実施、防火防災管理者の有資格者を増員し、安全管理体制の強化に努めた。	
キリスト教 センター	学園キャンパスの随所に、いのちの尊さと平和の大切さを訴える「アンネのバラ」を植えているが、さらに、増やしていく。また、苗木の配布も継続していく。	

学校法人 茨城キリスト教学園

■ 茨城キリスト教大学大学院

文学研究科 英語コミュニケーション専攻
(2023年4月英語英米文学専攻から名称変更)
生活科学研究科 食物健康科学専攻
心理学専攻
看護学研究科 看護学専攻

■ 茨城キリスト教大学

文学部 文化交流学科
現代英語学科
児童教育学科 (児童教育専攻・幼児保育専攻)
生活科学部 心理福祉学科
食物健康科学科
看護学部 看護学科
経営学部 経営学科

■ 茨城キリスト教学園高等学校

全日制普通科

■ 茨城キリスト教学園中学校

完全中高一貫6年制教育

■ 茨城キリスト教大学附属認定こども園

せいじ園・みらい園

第15期中期経営計画 2021年4月1日開始

Peace
Truth
LOVE  茨城キリスト教学園

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

TEL: 0294-52-3215(代)

FAX: 0294-52-3493

<https://www.icc.ac.jp/edu/>

